

秋の深まりを感じる今日この頃、皆さんはいかがお過ごしですか。

「秋の読書週間」ということで、2階渡り廊下に、前期図書委員による本の紹介文を展示しました。

テーマは「図書委員が選ぶSDGsの本」です。気になった本がありましたら、是非借りに来てください！お待ちしております。



○22HR図書委員住友&扶川のオススメ！

『神様の御用人』

浅葉なつ 著



日本には「八百万の神々」と称されるほど多くの神々が存在しています。今回、私が紹介する本は、そんな個性豊かな神々が登場する『神様の御用人』です。

フリーターの萩原良彦は、ひょんなことから神様たちの願いを聞いて回る人間「御用人」になってしまい、神様たちの願いを叶える

ために東奔西走するはめに……。図書館に1〜7巻まであるので、ぜひ読んでみてください。

○新着図書案内プラスより……！

『楽園の鳥』

阿部智里 著



2016年の図書館便り1月号で紹介したこともある阿部智里さんの八咫鳥シリーズ。今年9月に新章がstartしました。雑誌「ダ・ヴィンチ11月号」でも特集が組まれている期待のシリーズです。ぜひ全作制覇していただきたいものです!!!

○21HR図書委員後藤&佐藤は、橋川先生にインタビューしてきましたー!!

1 おすすめしたい本は？

めどるましゆん うわかじ どう ちりてい
目取真俊さんの『面影 と 連れて』という本をおすすめします！

2 その本の魅力を教えてください

目取真さんの作品には、じつと汗ばむような熱い風と、眩しい光、青い海、したたる木々の緑など沖縄の美しい自然と、そこで見えるはずのないものを見、聞こえるはずのない声を聞きながら生きている人が登場してきます。現実離れした精霊の世界と、人びとの当たり前の暮らし、そして沖縄戦の凄惨な描写が何層にも折り重なって語られていくので、読んでいくうちに夢を見ているような不思議な感覚におちいります。

現実と異世界の境界線があやふやだからこそ、現実の世界でふいに襲ってくる血と痛みがものすごくリアルで、読みながらいつも泣いてしまいます。おすすめです！

3 好きな作家はいますか？

池波正太郎さんです。『鬼平犯科帳』と『剣客商売』はもう何回読み返したか分からないくらい読みました。

4 なぜその作家が好きなのですか？

主人公が魅力的に描かれているのはもちろんのだけど、話の合間に「蕎麦をすする」とか「アサリ汁をごはんにぶっかけてかき込む」とか、食事シーンがいっぱい出てきて、しかもめっちゃくちゃ美味しそうなんです！口いっぱいに美味しい物を頬張る物語の中の人びとが、本当に生きているみたいで大好きです！

5 高校生の私たちに読んで欲しい本はありますか？

自分の好きな作家さんの本を全制覇することもいいですが、自分では手に取らないような本に挑戦してもらいたいです。例えば、おすすめしたい本でとりあげた目取真俊さんの本をぜひ読んで欲しいです！

6 日本史に関係する本でおすすめの本を教えてください。

『木簡 古代からの便り』です。日本史の授業でも習う木簡をたくさん紹介してくれていて、面白いです！木簡を書いた当時の人びとの姿や暮らしぶりがいきいきと浮かんできますよ。あと、大学で日本史を勉強したいなぁと思っている人は、この本を読むと、大学での勉強の様子を垣間見られるかもしれませんね。

12月号は23&25HR図書委員さんが担当します。お楽しみに！

